

第9.1節 世田谷と二子玉川と映画「ALWAYS 三丁目の夕日」 2023年8月 第67号

1978年（昭和53年）8月1日に二子多摩川園駅を介して、東急新玉川線（二子玉川園ー渋谷）と営団半蔵門線の直通運転が開始しました。翌年8月12日には東急田園都市線（つきみ野駅ー二子多摩川園）が新玉川線を経由して、半蔵門線への直通運転を開始しました。半蔵門線はこの時、青山一丁目駅止まりでした。当時の二子玉川園駅の立体交差で、上が大井町線、下が新玉川線でした。

現在の二子玉川駅に近い多摩川沿いには、1922年（大正11年）に「玉川第二遊園地」が開園して以来、多くの行楽施設がありました。戦争の影響などで閉園し、農地に変わることが有りましたが、戦後復興の中で1954年（昭和29年）、児童の楽園を目指す二子玉川園が開園しました。駅名も二子玉川園駅になり、玉電や大井町線を利用して多くの親子連れが来園しました。また学校の遠足でも訪れ、本当に多くの子供の楽園になりました。

豆電車・観覧車・飛行塔・回転遊覧船等の充実した施設に加え、1956年（昭和31年）4月には当時東洋一ともいわれた「フライングコースター」が完成しました。子供に限らず、スリルを味わいたい大人にも人気でした。また、「航空博覧会」「輸入会社ショー」といったイベントも好評でした。五島ローズガーデンは、1957年（昭和32年）に二子玉川園に併設する形で開園しました。来園者は遊園地の奥へ進み、フライングコースターの脇を抜け、ガーデンの入口へと移動しました。しかし、各地の遊園地が大規模する流れに逆らえず、1985年（昭和60年）に閉園しました。跡地は「二子玉川ライズ」になりました。（玉川高島屋S.Cは1969年（昭和44年）に二子玉川駅前に出来ました）映画「ALWAYS 三丁目の夕日」に描かれた東京の下町の人情はどこに行ったのでしょうか。

映画「ALWAYS 三丁目の夕日」は昭和33年（1958年）の東京の下町を舞台とし、夕日町三丁目に暮らす人々の温かな交流を描くドラマです（当時の港区愛宕界隈を想定）。建設中の東京タワーや上野駅、蒸気機関車C62、東京都電など当時の東京の街並みをミニチュアとVFX（CG）で再現した点が特徴で、昭和30年代の街並みが再現されたコンピュータシミュレーションでは、東京工科大学メディア学部の研究室が協力しました。



（多摩川園の空撮－1930年）



（多摩川園駅前－1970年）

（画像は Yahoo Japan から引用）

## 耳寄り情報

## 【江戸の長者番付とは？】

天皇家の領地は17世紀（江戸前期）初期に1万石でしたが、2代将軍秀忠の時に1万石、5代将軍綱吉の時に1万石の寄進が有り、8代将軍吉宗の時には3万石になっていました。収入は35%の税率として1万500石=1万500両とあるので、現在のお金にして17億100万円です。全額が天皇家の生活費になりますが、江戸の公方様の生活費に比べると2割弱にすぎません。それでも大きな収入と言えますが、御所の維持費や年中行事の費用、天皇側に仕える男女の経費等に当てるのが精一杯で、外出等贅沢な生活は出来なかった様です。

ここでは、公方様と比較してみます。毎朝お目覚めになると、うがいと手水（ちょうず）（洗顔）をされます。洗顔は糠を入れた木綿の袋で、お付きの女官「お局」が絞った湯布で顔を拭かれます。公方様の側には男性しかいませんが、天皇の側には女性しかいません。このあと歯に「鉄漿（かねーおはぐろ）」をつけます。これは公家衆も同様です。

身支舞が済むと常の御殿の御居間に移られ、神様・仏様・御陵（泉涌寺一せんにゆうじ）に遥拝され、食事の「御朝餉（あさがれい）」になると、最初に「おあさ」が出てきます。餠（あん）を被せた団子ほどの餅を六つ土器に盛り、白木の三方に載せてあります。戦国時代の乏しかった朝食を忘れない為のセレモニーで、餠には砂糖ではなく塩が用いられていた為、ご覧になるだけで食べませんでした。

「おあさ」が下がると、朝御膳になります。御膳を拵（こしら）える「板元」から「板元吟味役」に渡され、主上のお口に合う様甘い辛いを調べていると御膳番が現れ、御膳を点検して三方に載せます。その三方を「御末」という女官に渡し、御末から「命婦（みようぶ）」へ、命婦から受取った「内侍（ないし）」が主上の前に供えます。お残しが有ると御末7人の拝領になるといいます。

食後しばらくは休息され、午前の手習い・学問・和歌となり、昼御膳のあいだに煎茶・薄茶、あるいは菓子を召し上がります。最初の学びは、17世紀前半の元和元年（1615年）大坂夏の陣で豊臣氏滅亡に幕府と朝廷で取り決めた「禁中並公家諸法度」の第1条で、「天子諸芸能の事、第一御学問也」として学問と和歌に習熟することが定められています。昼御膳には、毎日、塩焼の鯛がでます。目の下1尺（約30cm）と決まっています。味噌汁は鯛等魚の入った精進物となります。午後は休憩のあと、午前と同じく、薄茶、煎茶、菓子を召し上がり、手習い・学問・和歌をされるのが日課でした。

夕御膳の時に御所言葉で「オッコン」というお酒を吞まれます。錫（すず）の徳利で爛をして差し上げ、御酌は「お局」の役目です。幕末の孝明天皇の様にお酒の好きな方は午後10時頃まで吞まれることが有り、その時のお休みは午前0時になるとのことです。

（江戸の長者番付 菅野俊輔 青春出版社より）

【機嫌よければ、うまくいく】は第10章に移動しました